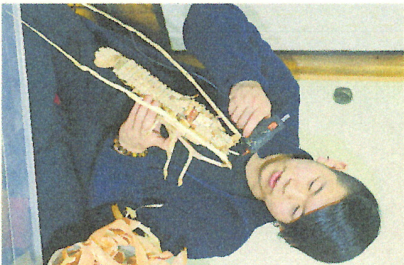


廃材で作った動物の
オブジェ

蚊もクジラも実物大

■廃材オブジェ 加治聖哉さん(23)

品が多く、実物大の動物だ。月から地域おこし協力隊員として、廃材を余すことなく使い切ろうと、全長20センチのクジラからウミの蚊まで作った。「捨てるものを改めて、リストも掛か家を改装しキヤリアを設けた。窓は建築で出た廃材などを組みせし」といすらっほぐり、オブジェを作るキリン、カシマクロ、クジラなど作



廃尾きっての若手作家の
加治聖哉さん(三長岡市市
尾本町3)

村上市出身で、2019年
2月6日には、かんなの削り
くすを使ったウサギオブジェ
を行う。先着10組。千円。申し
込みは加治さん、080(20
5)4663。



「おかめの顔は作者と似てる」と笑う今井厚さん。どちらか優し
い表情。長岡市市尾本町2
出っ張り顔を書きまし
た「おかめはらや」左君
対称に描くのがポイント

ぽっこり表情豊かに

■おかめかほちや 今井厚さん(80)



カボチャにおかめの顔を挿
の会発祥足。コングルを主
権し、全国から作品を集めた。
地の元が園児が好きなキヤラ
タチを挿したり、高校生がお
大野町2の今井厚さん(80)
かめかほちやうぐりに挑戦し
は、二つとして同じ顔はな
たりしてきた。子どもたち
い。不思議なのは作者の顔に
似てくることとほぼ等しい。
材料のカボチャは裏側がほ
けなちやねと思いを語る。
こりと飛び出た種類だ。1
983年に旅先の福島県会津
地方の宿で偶然目にし、心引
かれた。カボチャを切り受け
て作り、種をまき増やした。
96年に廃尾おかめかほちや

植物や紙漆黒に变身

■炭アート 佐々木昭二さん(82)



原形をどめたまま漆黒に
染まったタンポポや折り鶴。
はかなさがある。上櫃出の佐
々木昭二さん(82)は草花や果
物紙などさまざまなものを
炭にしてきた。立ち上る煙を
見て火加減を調整し、灰にな
らぬい絶妙な焼き加減で仕上
げる。かまどの扉を開いたと
きのわくわく感に郷土され
た。以来「何でも焼いたね
した。以来「何でも焼いたね
と振り返る。2014年中
越地震や雪でかまどが壊れ、
い頃に父が生活費を稼ぐため
に炭を作っていた姿を思い出
に炭を作っていた姿を思い出



原形を保ったまま炭になっ
た植物や紙の折り鶴

「何でも炭にしてみました」と語
る佐々木昭二さん(長岡市土樋出

り上げた」と力を込める。
者かいたら、一緒に地域を盛
一番。やってみたいという者
考えている。「やっぱ炭がど
個性化につけられないかと
まらに大きなかまどを作り、
制作を離れた。だがいすれ、

〈メモ〉記事で紹介した作家4人の作品
約70点が長岡市中央公園の廃尾文化セ
ナーで2月1、2日に展示される。午前
9時～午後5時。無料。0258(52)2020。